

新体制になりました 京都市立病院 脳神経外科

市中病院としての役割を担い、患者様や地域の医療機関の方々のご期待にお応えしたい

脳神経外科部長 初田 直樹

— 今年7月から新体制となった脳神経外科の診療体制と概要を教えてください。

365日・24時間救急に対応できる体制をとっています。脳の画像検査（CT、MRI）、カテーテル検査が実施でき、緊急の脳手術と血管内治療を行うことができます。2名の脳神経外科専門医でスタッフを構成し、脳神経血管内治療専門医と脳卒中専門医が在籍しています。また、2013年に脳卒中センターが開設されており、より高度な専門医療を行う体制が確立しました。

— 新体制を率いる部長としての意気込み、特に力を入れている治療などを聞かせてください。

市中病院としての役割を明確に捉え、患者様や地域の医療機関の方々の様々なニーズに即応したいと考えています。急性期脳血管障害である脳卒中や外傷などに対する救急対応とともに、予定手術にも積極的に取り組んでいきます。具体的には、未破裂脳動脈瘤、ステント留置、三叉神経痛、顔面痙攣など多様です。この双方への対応も当科の特徴になると思います。

— 脳卒中センターの部長も兼務しておられますが、その機能などを教えてください。

当センターでは、脳神経外科と神経内科の合同で診療を行っています。出血などの緊急時には脳神経外科が即応しますが、神経内科で治療できるものも多いのです。脳神経外科専門医が内科的治療に関して訊ねることも少なくありません。また、頸動脈狭窄や未破裂脳動脈瘤などは神経内科で見つかるケースも数多くあり、この場合も互いに相談しながら最善と判断される加療を施します。このように外科的治療と内科的治療の双方が行え、治療の選択肢が広がるのも特徴です。予防的加療を含めた総合的な脳卒中センターを目指し、薬物治療、理学療法をはじめとしたりハビリ加療にも力を注いでいきたいと考えています。

— 地域の医療機関の方々に向けたメッセージをお願いします。

例えば、早期の脳卒中などは診断が難しい症例もあります。少しでも疑念があれば、その時点でご紹介いただければと存じます。先に申し上げたように、脳神経外科と神経内科の双方でご対応することができます。さらに密接な連携を願っております。どうぞよろしく願います。

これまでに培った脳腫瘍治療の専門知識や貴重な経験をできる限り生かしていきたい

脳神経外科医長 地藤 純哉

大学病院では、脳腫瘍を治療している医療チームに在籍していました。大学病院と市中病院では役割や条件は異なりますが、これまでに培った知識や貴重な経験の数々をできる限り生かしていきたいと願っています。ちなみに、大学で脳神経外科を選んだのは、「21世紀は脳の時代」であり、これに関わる医療分野に進みたいと考えたからです。当院で治療を受けられる患者様のご期待や地域の医療機関の方々のご要望にお応えすることによって、社会に貢献したいと願っています。そのためには、これまでと同様に、最新の情報を積極的に収集するなど研鑽を重ねてまいる所存です。どうぞよろしく願います。



プロフィール

- 脳神経外科部長 初田 直樹
専門 脳神経外科全般 脳卒中
資格 日本脳神経外科学会専門医
日本脳卒中学会専門医
日本脳神経血管内治療学会専門医
日本神経内視鏡学会
神経内視鏡技術認定医
日本医師会認定産業医
学歴 平成2年
滋賀医科大学
医学部医学科卒業
- 脳神経外科医長 地藤 純哉
専門 脳神経外科一般
資格 日本脳神経外科学会専門医
日本脳卒中学会専門医
日本神経内視鏡学会
神経内視鏡技術認定医
学歴 平成20年
滋賀医科大学大学院
医学系博士課程修了